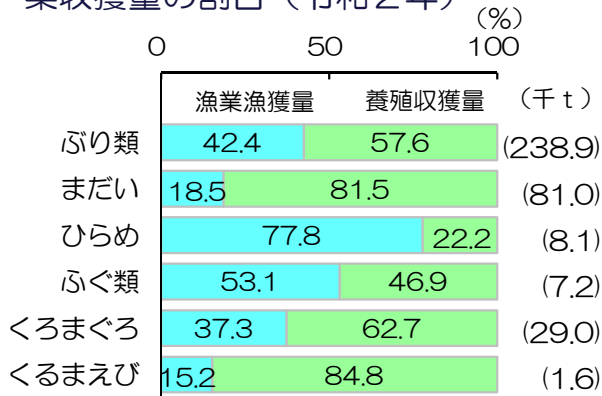


九州の養殖ふぐ類・ひらめ・くろまぐろのシェアは50%以上

養殖魚の中には、生産量で天然魚を上回るものがあり、全国では特に「まだい」や「くるまえび」の養殖魚が天然魚を大きく上回っています。

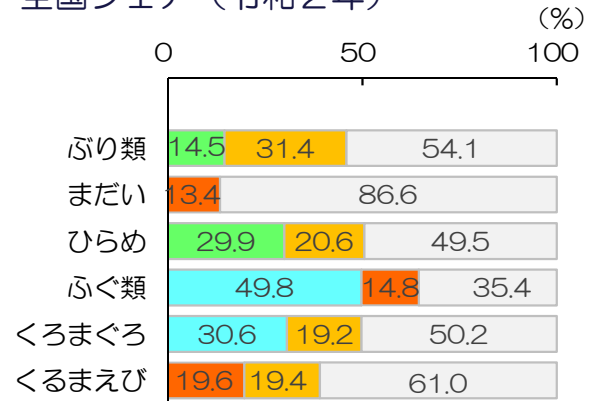
九州は養殖魚の全国シェアが高く、「ふぐ類」が約65%、「ひらめ」、「くろまぐろ」の約50%が九州の主産県で収穫されています。

■ 全国の海面漁業漁獲量と海面養殖業収穫量の割合（令和2年）



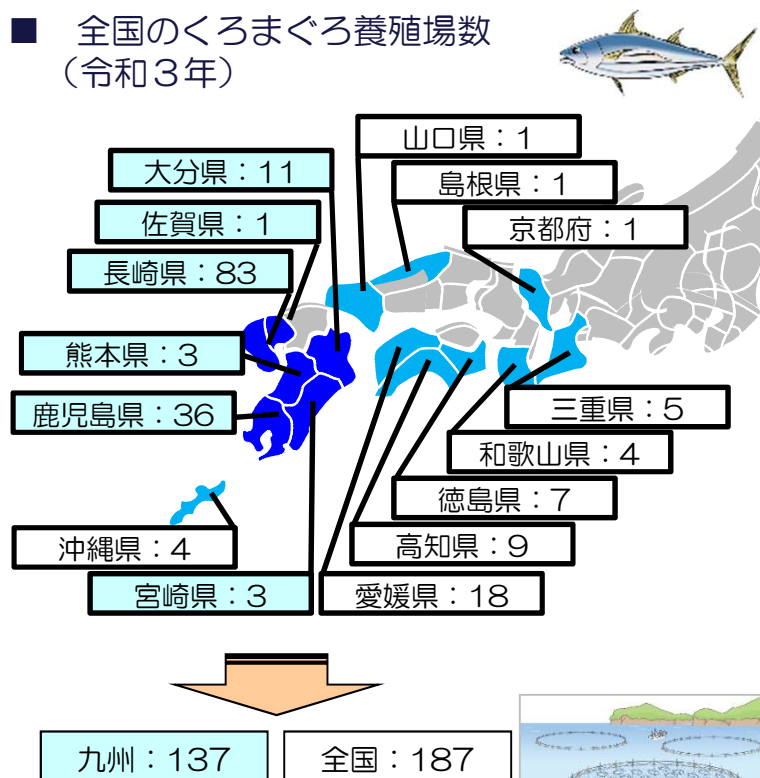
資料：農林水産省統計部「海面漁業生産統計調査」
注：「()」は、漁業漁獲量と養殖業収穫量の計です。

■ 海面養殖業収穫量の九州各県の全国シェア（令和2年）

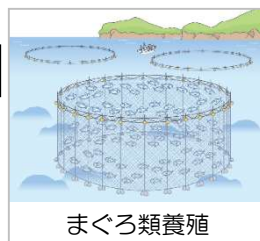


資料：農林水産省統計部「海面漁業生産統計調査」
注：秘密措置により公表していない値を除き、全国シェア10%以上の九州各県を抜粋しています。

■ 全国のくろまぐろ養殖場数（令和3年）



資料：水産庁「我が国におけるクロマグロ養殖」
注：漁場数は令和3年12月1日現在です。



■ 魚類・甲殻類養殖の歴史

海面魚類養殖の分野では、昭和30年代に施設費が安く簡便に設置できる小割り式生簀（いけす）が開発されたことにより、昭和33（1958）年頃から、西日本一帯でぶり養殖業への参入機運が高まりました。ふぐ類はぶりと同時期に小規模な養殖が始まり、まだい、まあじ及びしまあじは昭和40年代中頃から、ぎんざけ及びひらめは昭和50年代から商業的な養殖が始まりました。

一方、くろまぐろの養殖技術は昭和40年代中頃から研究が始まりましたが、当初は共食い、外傷、網への衝突等による斃死（へいし）が多く、これらの課題をある程度解決し日本で本格的な養殖生産が可能になったのは平成に入ってからです。

甲殻類養殖の分野では、明治38（1905）年に、熊本県の天草諸島に位置する維和島（現上天草市）において、海水を入れた池でくるまえび養殖の試みが始まりました。

資料：平成25年度水産白書「特集 養殖業の持続的発展」より抜粋

